

第6学年体育科学習指導案

日 時 令和7年5月16日(金)
第5校時 13:25～14:10
学校名 日野市立平山小学校
対 象 6年1組 27名
わかくさ学級 6年 6名
会 場 校庭
授業者 T1 高橋伸幸(主任教諭)
T2 藤田宏樹(教諭)

1 単元名 「ティーボール」

E ボール運動 ウ ベースボール型

2 単元の目標

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
ベースボール型の簡易化されたゲームの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によってゲームを行うことができるようにする。	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えを他者に伝えることができるようにする。	運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①ベースボール型(ティーボール)の行い方について言ったり書いたりしている。 ②ボール操作(ボールを打つ攻撃, 捕球したり送球したりする守備など)によって、簡易化されたゲームをすることができる。 ③ボールを持たないときの動き(チームとしての守備の隊形をとる, 走塁をするなど)によって、簡易化されたゲームをすることができる。	①ルールを工夫している。 ②自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ③課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①ベースボール型(ティーボール)に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④勝敗を受け入れようとしている。 ⑤仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥場や用具の安全に気を配っている。

4 単元について

(1) 単元観

本単元は小学校学習指導要領（平成29年3月告示）体育 第5学年及び第6学年 E ボール運動

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすること。
- ウ ベースボール型では、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすること。
- (2) ルールを工夫したり、自己のチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

を受けて設定した。また、小学校学習指導要領解説体育編（平成29年7月）の内容を踏まえ、本単元における児童に味わわせたい運動の特性を以下のようにまとめた。

○一般的特性

- ・ 競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しみや喜びを味わったりすることができる運動である。
- ・ 基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことができる運動である。
- ・ ボール操作の技能は「打球」「捕球」「送球」である。
- ・ ボールを持たない時の動きは「空間・ボールの落下点・目標に走り込む」「見方をサポートする」「相手のプレーヤーをマークする」などである。

○児童から見た特性

- ・ 「遠くへボールを飛ばし、大量得点につなげる。」「守備のいないところにボールを打つ。」「仲間にうまくボールを投げる。」「相手チームを早くアウトにさせる。」などが上手くいったときに楽しさや喜びを感じる運動である。
- ・ チームに貢献できたときに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- ・ チームで作戦を決め、ゲームで実行し、成功したときに楽しさや喜びを感じる運動である。

(2) 児童観

ア 教師から見た実態

本学級児童は体を動かすことが好きで、休み時間にはクラスの8割以上の児童が校庭に出て鬼遊びやボール遊びを行っている。優しい児童も多く、「友達を理解する」や「良さを見付ける」という「認め合いの眼」も育っていると言える。一例として、昨年度転入してきた外国籍の児童には、クラスの誰かがフォローをし、クラス全体で助け合う姿が見られている。また、個人の活動よりもペアまたは集団の方が得意という児童が多い一方、内気な性格の児童が多いため、「誰か任せ」にしている場面もこれまで多く見られてきた。

さらに、個別に配慮を要する児童もいたり、わかくさ学級児童と共同体育を行ったりすることからも、本単元で「みんなが楽しめる体育」を実現できる授業を目指したい。

イ 実態調査

調査方法：選択式・記述式アンケート 調査時期：令和7年4月

調査対象：6年2組27名 わかくさ学級6年6名 計33名

① 体育の学習は好きですか。

好き…22人 どちらかというとき好き…7人

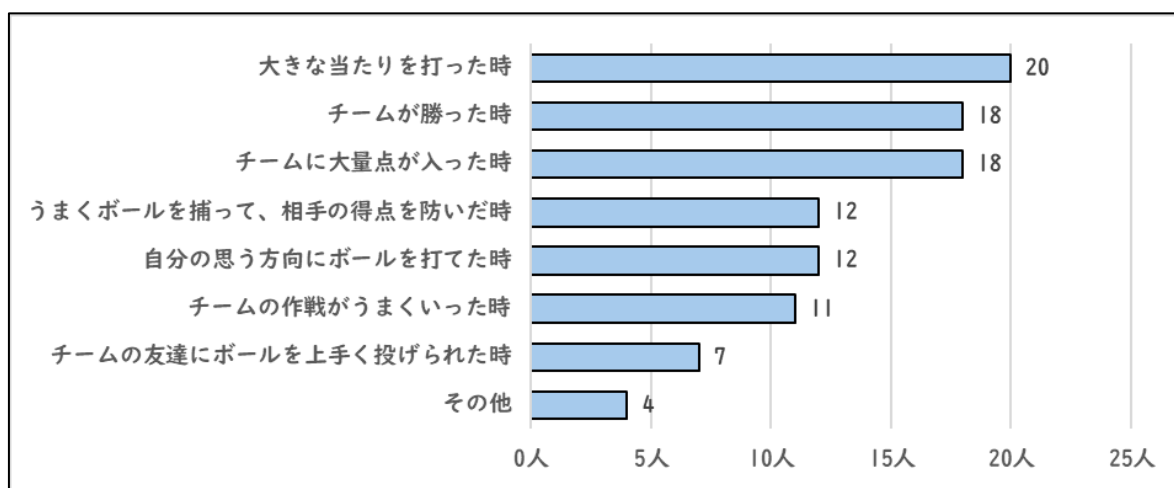
どちらかというとき好きでない…3人 好きでない…1人

② ティーボールの学習は好きですか。

好き…18人 どちらかというとき好き…12人

どちらかというとき好きでない…1人 好きでない…2人

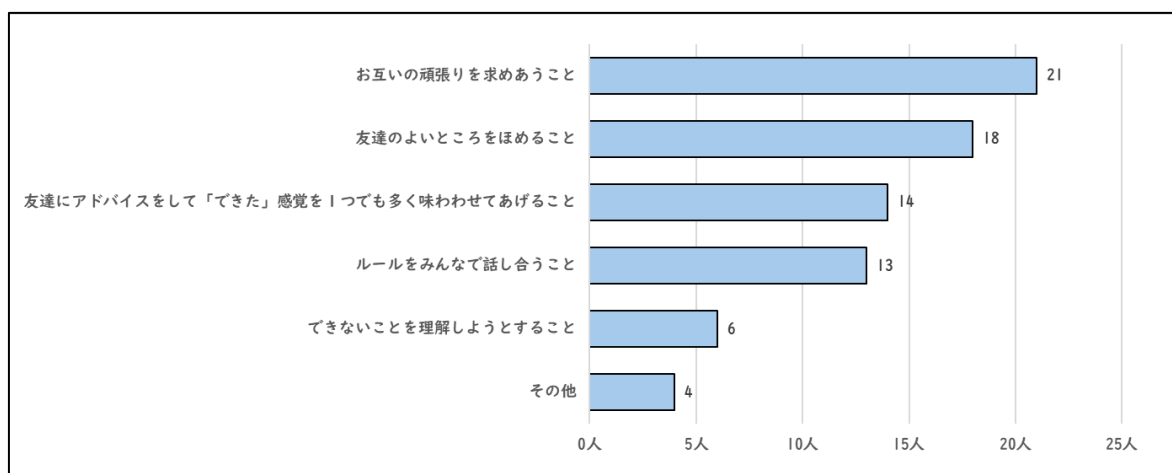
③ ティーボールの学習が「楽しい」、「嬉しい」と思える瞬間はどのような時ですか。（複数回答可）



「その他」の回答

- ・全員がルールをしっかりと守れていたときは楽しいと思う！
- ・負けてもみんなでまた頑張ろうとすること。相手チームがよい作戦で来たときそれがうまくいったとき（悔しいけどその作戦を真似できる）
- ・全部
- ・そもそもない

- ④ 全員（６－１とわかくさ学級６年）が楽しめる体育を目指すには何が必要だと思いますか。
（複数回答可）



「その他」の回答

- ・みんな平等に体育を行う
- ・同じようにできるだけ接してあげること
- ・わかくさ学級が運動をがんばってくれと嬉しい！
- ・弱いもののいじめをしないこと

ウ 分析・考察

①②の結果から、児童は体育の学習について８割以上、ティーボールの学習については９割以上好意的に捉えていることが分かる。③の結果から「大きな当たりを打った時」、「チームに大量点が入った時」、「チームが勝った時」に楽しさや嬉しさを感じる児童が多くいることが分かった。これらのことから本単元では、進塁で得られる得点だけでなく、打撃後にバットをポートボール台（裏返して「箱」として使用）に入れると１点獲得できるというルールを作った。こうすることで、内野ゴロとなってもバットさえポートボール台に入れば、全員が確実に得点できるようになる。また、④の結果から「お互いの頑張りを認め合うこと」や「友達のよいところを褒めること」が「全員が楽しめる体育」を目指す手だての１つになると考えられる。そこで、作戦タイム時に「ほめほめタイム」を設定した。誰かに称賛されることで、自分のプレーに自信が湧いたり、失敗しても次につなげられる気持ちを生み出したりすることができ、さらにチームの雰囲気もよくなっていくと考えた。

(3) 教材観

ベースボール型は、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって簡易化されたゲームをして、集団対集団などの攻防によって競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元のルールでは、進塁するごとに獲得点が増えるようにしたり、裏返したポートボール台にバットを入れると確実に点を獲得できるような工夫をしていたりするため、「打つ楽しみ」、「チームに貢献できる喜び」を味わうことのできる教材であると言える。一方で「時間の読み」が難しい教材でもある。静止しているボールに当てるのも難しい児童がいたり、長打によるボールからアウトにするまでの時間が伸びたりと、それらが重なってゲーム時間や作戦タイム時間の十分な確保ができなくなってしまう懸念もある。

上記のことから、1 スイングでボールに当てられるよう片手でも振れるバットを準備したり、児童からの意見でアウトゾーンをゲーム前に移動できるルールを作ったり、ボールをティーに乗せる係もチームごとに決めさせたりした。4 5 分間の中に「ゲームにつながる運動」や「ゲーム」、「作戦タイム」など多くの学習を設定しているため、慌ただしくなることが予想されるが、チームで協力し、児童らでつくる授業を行い、励まし合い、友達を認め合いながら「みんなが楽しめる体育」の実現を目指したい。

5 研究主題に迫る手だて

(1) 個別最適・課題解決

① 学習者用端末を使った振り返り

授業後の振り返りは学習者用端末を使って振り返りを行うようにする。全員の振り返りを見ることができるようになるため、①「友達の意見を参考にして書くことができる」、②「チームメンバーの振り返りと自分の考えを簡単に比較・共感できるようになる」というメリットがある。また、保存性もあるため、子供たちがいつでも過去の自分の授業の様子を振り返ることができる。さらに、毎時間の記録を一目で見ることができるため、授業後との自分の変容を一目で見ることができる。

② 全員が授業に参加できるような工夫

支援を必要とする児童や、運動に苦手意識をもっている児童も少なくない。すべての児童が同じようにボールを打ったり、ボールを捕ったりすることに難しい実態がある。そこで支援が必要な児童やスポーツへのアクセスが少ない児童には役割を与え、東京型体力向上モデルの「する・みる・支える・知る」の運動の多様な関わり方の観点に沿った自分に合ったかたちで学習に参加し、チームに貢献できるような参加の工夫を行う。第5時まで、チームごとの練習の仕方や記録としてビデオ撮影をする「ビデオ撮影係」やバットで球を打つが、走塁はチームメイトに任せる「攻撃専門」といったそれぞれの児童に合わせた参加の仕方をつくってきた。個別の役割をもたせる際には参加の仕方を当該児童と相談したり、児童同士の相談の中で役割を決めたりしてきた。他にも静止している打球を確実に打てるようバットの選択の工夫も行う。通常バットとバドミントンのシャトルケースで作った筒バットの2つから選べるようにする。この筒バットのよさは、「①軽量のため片手でスイングできる」、「②短くミートがしやすい」ところにある。道具の工夫を行い、全員が攻撃のチャンスを作れるようにしたい。

これらのよう一人一人が主体性をもてるような学習のデザインをすることで、「みんなが楽しめる体育」を実現できるのではないかと考えた。

(2) 対話・協働

① チームごとの作戦タイム(ほめほめタイム)

2時間目以降、試合時間とチームの作戦時間も十分確保するようにしてきた。児童らのアンケート調査から「お互いの頑張りを認め合うこと」「友達のよいところを褒めること」がティーボールの学習の「楽しい」、「嬉しい」のつながりに期待できると考えられるため、話し合いでは「ほめほめタイム」を設定した。「ほめほめタイム」では1分30秒間で、前半の試合を振り返ってメンバーの良かったプレー、行動などを伝え合う。この時に、チームメイトを褒めるのに迷いがあり、何を言ってよいか自信のない児童には作戦ボードにある「ほめほめ言葉参考カード」を参考にさせたい。「〇〇くんの守備の□□がよかったよ!」というように、友達のティーボールにおける技能面を支えるようなほめほめ言葉を例示する。失敗したプレーがあっても友達に励まされたり、うまくできたプレーは友達からよい評価をもらったりすることで、自己効力感や意欲を高め、また次の試合を迎える心の準備をしたり、信頼できる雰囲気を作り、チームワークを高めたりすることが狙いである。

② 作戦ボードを活用した話し合い

チームで行う話し合いには作戦ボードを活用するようにする。作戦ボードには、①「自分の名前を書いた打順と守備のマグネット」、②マグネットを活用した「アウトゾーン」、③イラストで示す「ゲームにつながる運動カード」、④「ほめほめ言葉参考カード」、⑤「めあてカード」がある。作戦ボード上にこれらのカードがあることで児童一人一人が練習や試合に向けてのイメージをもちやすくなり、話し合いがスムーズに行えるようになると思った。

6 単元(題材)の指導計画と評価計画(全8時間)

時間		1	2	3	4	5	6（本時）	7	8
問題解決の流れ		つかむ				広げる			まとめる
ねらい		目標やルールを知り、ゲームを楽しむ。	チームの課題を見つけ、練習とゲームを通してうまくできる（投げる・捕る・走る・打つ）ポイントを見つける。			チームの特徴に応じて、作戦や練習を選び、チームの目標に向かって課題解決する。			ゲームを楽しみ、個人やチームでの成長を実感する。
主な学習活動		1 挨拶 2 単元の見通しの確認 3 本時のねらいの確認 4 準備運動 5 場や用具の準備、ゲームにつながる運動 6 ゲーム	1 整列、挨拶 2 本時の見通し 3 準備運動 4 場や用具の準備						
			5 ゲームにつながる運動 6 ゲーム①（総当たり戦） 7 作戦タイム（チーム） 8 ゲーム②（総当たり戦）（①と同じ相手） 9 チームごとの振り返り	5 チームのめあて決め 打順や守備位置確認 ゲームにつながる運動（チームごと） 6 ゲーム①（総当たり戦） 7 作戦タイム（チーム） 8 ゲーム②（総当たり戦）（①と同じ相手） 9 チームごとの振り返り	5 チームのめあて決め 打順や守備位置確認 ゲームにつながる運動（チームごと） 6 ゲーム①（総当たり戦） 7 作戦タイム（チーム） 8 チームごとの振り返り 9 ティーボール授業の振り返り（全体）				
		本時の振り返り（全体）、次時への見通し 整理運動 健康観察 挨拶 用具の片付け 教室にて振り返り（個人）							
評価（方法）	ア 知・技	① （行動観察・振り返り）	② （行動観察）	③ （行動観察）	① （行動観察・振り返り）			① （行動観察・振り返り）	① （行動観察・振り返り）
	イ 思・判・表				① （行動観察・振り返り）	② （行動観察）	③ （行動観察）		
	ウ 主	③ （行動観察）	② （行動観察）	④ （行動観察）		⑤ （行動観察）	① （行動観察）	⑥ （行動観察）	⑤ （行動観察）

7 本時(全8時間中の第6時)

(1) 本時の目標

◎積極的にティーボールに取り組もうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

○課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

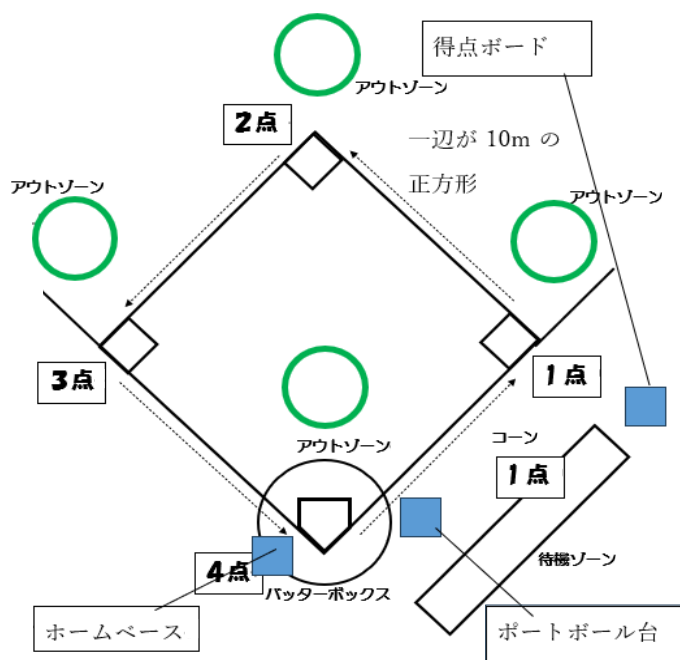
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点や配慮事項	評価規準
導入 13 分	1 集合、整列、挨拶 2 本時の見通し	○服装など安全確認をする。 ○前時で変わったルールや良かったチームを取り上げ褒め・価値付け本時の学習に生かせるようにする。	
	<div>(当日児童から引き出す) (みんなで作戦を話し合い、楽しく試合をしよう。)</div>		
	3 試合前の準備 ・準備運動 ・場や用具の準備 ・チームのめあて決め ・打順や守備位置確認 ・ゲームにつながる運動（チームごと）	○チームごとに分担した場所を準備できるように声掛けをする。 ○よく動かす部位をよくほぐすように声掛けをする。 ○ホワイトボードを使って、守備位置や打順の確認をさせたり、チームのめあてを決めさせたりする。 ○複数あるゲームにつながる運動からチームに合った練習方法を選択させる。 ○運動が苦手な子に、参加の仕方や使う道具の確認をする。	
展開 27 分	4 ゲーム①（総当たり戦）	○チームの課題解決に向けて、作戦や役割を意識して行動している児童やチームを称賛し、全体に広げていく。	ウ-①
	5 作戦タイム（ほめほめタイム）3 分	○作戦タイムの前半終了時に笛を吹き、ほめほめタイムに入るように合図を送る。 ゲーム①と同様の声掛けをする。	イ-③
	6 ゲーム②（総当たり戦） ※同じ相手と「後半戦」を行う。	○チームのめあてを達成できたか、近付けたか、試合をチームで振り返らせる。	ウ-①
	7 振り返り（チーム）		イ-③

<p>まとめ 5分</p>	<p>8 振り返り(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームや友達の良かったところ ・ルール of 改善点 <p>9 整理運動</p> <p>10 健康観察、挨拶</p> <p>11 用具の片付け</p> <p>(12 個人の振り返り)</p>	<p>○チームの振り返りで出てきたことや本時のめあてと正対した振り返りができていた児童やチームを取り上げたり、ルール of 改善点について振り返ったりしてもらい、全体で共有する。</p> <p>○運動で使った部位をほぐすようにする。</p> <p>○怪我の有無の確認をする。</p> <p>○チームで協力し、安全に気を付けて用具を運ぶよう声掛けをする。</p> <p>(○入力が難しい児童には、個別に声掛けを行い、言葉を引き出させてから入力させるようにする。)</p>	
-------------------	---	--	--

(3) 場の設定

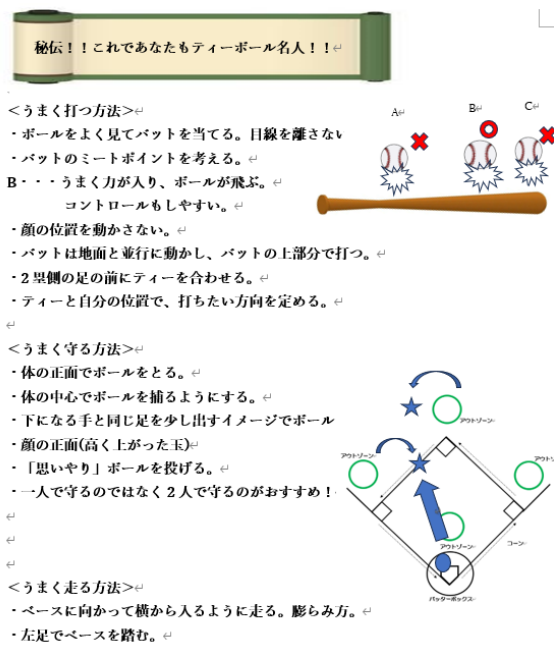


(4) 授業観察の視点

- ・全員が楽しみながら授業に参加することができていたか。(個別最適・課題解決②)
- ・チームごとの作戦タイム(ほめほめタイム)は「全員が楽しめる体育」を目指すための手だてとして有効だったか。(対話・協働①)

(5) 授業で使用した資料について

- ・本校職員によるお手本動画
- ・打ち方のポイント資料



・学習者用端末を活用した振り返りシート

	4月15日	4月21日	4月28日
個人の様子	<p>①結果</p> <p>②やっていたこと</p> <p>③良かったこと</p> <p>④みんなが楽しめているようにするには何を改良したらよいか。</p>	<p>①結果</p> <p>②やっていたこと</p> <p>③良かったこと</p> <p>④みんなが楽しめているようにするには何を改良したらよいか。</p>	<p>①結果</p> <p>②やっていたこと</p> <p>③良かったこと</p> <p>④みんなが楽しめているようにするには何を改良したらよいか。</p>
個人の様子	<p>①個人の様子</p> <p>②チームの様子</p> <p>③個人の様子</p> <p>④チームの様子</p>	<p>①個人の様子</p> <p>②チームの様子</p> <p>③個人の様子</p> <p>④チームの様子</p>	<p>①個人の様子</p> <p>②チームの様子</p> <p>③個人の様子</p> <p>④チームの様子</p>
先生から	<p>例えはどんなことでもいいぞ！教えて！</p>	<p>声掛けがうまくできたんだね！どんな声掛けができた？</p>	<p>おめでとう！初勝利！すごかったね！どうやって勝ったの？</p>

	4月15日	4月21日	4月28日
個人の様子	<p>①結果</p> <p>②やっていたこと</p> <p>③良かったこと</p> <p>④みんなが楽しめているようにするには何を改良したらよいか。</p>	<p>①結果</p> <p>②やっていたこと</p> <p>③良かったこと</p> <p>④みんなが楽しめているようにするには何を改良したらよいか。</p>	<p>①結果</p> <p>②やっていたこと</p> <p>③良かったこと</p> <p>④みんなが楽しめているようにするには何を改良したらよいか。</p>
個人の様子	<p>①個人の様子</p> <p>②チームの様子</p> <p>③個人の様子</p> <p>④チームの様子</p>	<p>①個人の様子</p> <p>②チームの様子</p> <p>③個人の様子</p> <p>④チームの様子</p>	<p>①個人の様子</p> <p>②チームの様子</p> <p>③個人の様子</p> <p>④チームの様子</p>
先生から	<p>本気で走っていいんだよ！</p>	<p>本気で走れたのはすごくよかったね！次はバットを握る練習だね！</p>	<p>本気で走れたのはすごくよかったね！次はバットを握る練習だね！</p>

(6) 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説体育編（平成29年3月）文部科学省
- ・ウェルビーイングを高める体育（令和6年8月）梅澤秋久
- ・スポーツ庁 ベースボール型「ティーボールを基にした簡易化されたゲーム」